こころ21だより

会報　第36号

2017年（平成29年）12月25日発行

NPO法人 心豊かな家庭環境をつくる広島21

発行責任者／理事長　岸房康行

事務局
〒730-0856
広島市中区河原町7-2 徒然社内
TEL 082-292-4507（金 子）
FAX 082-292-4508
E-mail：kokoro21@tsure20.co.jp

随想　思いつくままに―

農業について思うこと

髙木　一之

今から5、6年前、TPP加盟の是非をめぐって国会が大きく揺れました。とくに農業については、壊滅的な打撃を受けている恐れがありとの反対意見が出され、激しい議論となりました。

一方この時期、日本の農業は、

(1) 農家の高齢化、後継者不足

(2) 耕作放棄地の拡大

(3) 食料自給率の低下

(4) 食生活の洋風化に伴うコメ離れ

などなど、根の深い問題を抱え、抜本的な対応が求められておりました。

こうした状況の中で、農業問題が必然的にTPPの主要テーマとなりました。政府は、基本的にはTPP加盟を前提に論議を進めましたが、農業については、これを守りつつ、“自由化に耐え得る農業づくり”を目指し、種々の方向を示しました。具体的には、

(1) 農地の大規模化、集約化

(2) マーケットイン型農業、六次産業化

(3) 農業への企業参入

(4) 輸出産業化

(5) IT、AIの活用

(6) 農協改革

(7) 農業ファンド、農業金融の積極化

などなど、多岐にわたりました。その推進には、問題点も多く、今後曲折も予想されますが、着実に新しい芽が育ちつつあるのは確実です。

ただ、忘れてならないのは、日本は地勢的に中山間地が多く、農地の集約に難点があること。農地は治山、治水、環境保全の役割など多面的な機能を持っていること。なによりも農業自体が自然に左右されやすいことなどがあり、農業をビジネス的側面だけで捉えることの難しさがあります。それだけに多難な道といえます。

「農は国の本」という言葉があります。われわれ一人ひとりがもっと農業に関心を持ち、それぞれの立場でサポートする必要があると思います。地方創生の面からも農業の再生は不可欠です。

多難な道とはいえ、日本人の英知、ポテンシャルをもってすれば、近い将来必ずや“21世紀型の新しい農業”が創り出されるものと確信しております。

（NPO法人こころ21 理事　広島信用金庫相談役）

第10回　会員研修・日帰りバスツアー

『旧海軍兵学校と軍港くれ』の歴史探索の旅

ツアー行程　10月26日（木）

・江田島市海上自衛隊第１術科学校（旧海軍兵学校）見学
・昼食「呉海自カレー」
・旧海軍工廠の跡地など見学（車窓）
・呉市立美術館で開催中の「無言館　遺された絵画展」鑑賞
・入船山記念館、大和ミュージアム見学など

海上自衛隊第１術科学校（教育参考館）

ここは海軍の歴史と伝統保存、自己修養と学術研鑽の資料とすることを目的としています。日本海軍の歴史に関する貴重な資料や、真珠湾攻撃の特殊潜航艇乗員、回天特別攻撃隊員、神風特別攻撃隊員合わせて2,633人が平均年齢19.8歳 という若さで戦死した隊員の遺書などが、展示されています。

また、太平洋戦争で戦没した兵学校出身者3,560人の戦歴簿（顔写真つき）が保存されています。左の写真で紹介しているのは失敗作の一部。なぜこれがあるかというと、実はこれを持たれているのは、私たちのNPO副理事長の野坂さん。そうです、父上がこの記録を書かれたのです。「江田島町教育長の傍ら、もっぱら夜、５年間かけて一人で書き上げた。１枚書くのに少なくても20分、3,600枚といえば畳36枚分になると父から聞いた」と野坂さん。話を聞いて大変驚き、かつ感動を覚えました。

（金子敏郎）

『旧海軍兵学校と軍港くれ』の歴史探索

江田島市の海上自衛隊第１術科学校（旧海軍兵学校）の見学を終えて、小用港からフェリーで呉中央桟橋に到着しました。早速、隣のシーサイド・カフェ・ビーコンで「水兵さんの海軍カレー」に舌鼓を打つと、休む間もなくバスに乗り、呉観光ボランティアの会副会長の渡辺千尋さんのご案内で旧海軍工廠の跡地見学に向かいました。

美しい赤レンガ造りの海上自衛隊呉地方総監部第一庁舎（旧呉鎮守府庁舎）を車窓から眺めながら、呉湾を見晴らす高架道路に入ると、かつて戦艦

大和を建造したドック群が眼下に見えます。バスは、赤レンガ造りの旧海軍工廠の遺構を抜けて海岸線沿いに南下して、音戸大橋を望むあたりでユーターンしました。現在の日新製鋼呉製鉄所の工場群（かつて砲煩部（ほうこうぶ）があったところ）を過ぎ、「アレイからすこじま公園」前でしばらくバスを停めて、渡辺さんの解説を聴きながら潜水艦桟橋（かつて電気部があったので通称電気桟橋と呼ばれていました）に停泊している潜水艦や護衛艦などを眺めました。

かつて、このあたりは旧海軍工廠本部、電気部、水雷部、製鋼部などがあった海軍工廠の中枢部でした。私は当時中学2年生でしたが、学徒動員令によって水雷部（魚形水雷製造部）の第１機械工場で旋盤工として働いていました。1945年6月22日、未明から始まった米空軍機大編隊による空爆によってそのあたり一帯は壊滅状態となり、多数の死傷者が出ました。その中には中学生や女学生たちの遺体も混じっていました。今なお忘れられない悲しい思い出です。潜水艦桟橋には数隻の小型のハ号潜水艦が係留されていましたが、空爆の翌日行ってみると、全艦撃沈され、辛うじて生き残った乗組員の水兵たちは、中が空洞になっている潜水艦桟橋を住居としていたことなどを思い出しました。

やがて、バスはかつて戦艦大和が建造されたドックのあたり（米空軍が意図的に空爆を控えたといわれています）を過ぎて入船山公園駐車場に到着し、呉市立美術館と入船山記念館を見学しました。

呉市立美術館では戦没画学生慰霊美術館「無言館」開館20周年記念展の開催中で、学芸員の渡辺千尋さんの解説を拝聴しながら130点の遺作を鑑賞することができました。画家としての志を抱きながら絵筆を置いて戦場に赴き、再び故国に帰って絵筆をとることがかなわなかった若き画学生たちの遺作を前に、彼らの無念な気持ちを想像しながら胸がふさがる思いでした。入船山記念館では、国重要文化財として保存公開されている旧呉鎮守府司令長官官舎と、併設されている郷土館、歴史民俗資料館などを見学することができました。旧司令長官官舎は、大小二つの切り妻にハーフティンバー様式の美しい外観をもつイギリス風の洋館です。

最後にバスで呉中央桟橋の駐車場に戻って、呉市海事歴史科学館「大和ミュージアム」を見学しました。10分の１サイズの戦艦大和の模型の前で、学芸員の花岡拓郎さんの解説を拝聴しました。館内では、明治以来、軍艦建造によって培われた優れた技術がいわば産業遺産として、戦後のわが国の造船業を支える根幹の技術に生かされたことを示す展示などを見ることができました。旧日本海軍は、旧海軍工廠で建造された百数十隻の軍艦のほとんどを失い、海軍軍人の戦死者数は47万余人であったという花岡さんの解説を聴き、今さらながら戦争のむなしさと愚かさ思うと同時に、平和のありがたさをしみじみと実感させられました。

今年度の歴史探索バスツアーは、広島市内の映画館で昨年来ロングランを続けているアニメ映画「この世界の片隅に」の現地探索が発端となった企画でした。天候に恵まれた楽しいバスツアーでしたが、また一方、旧日本海軍の栄光と没落の遺跡を巡りながら、先の大戦への悔恨と鎮魂の思いを新たにするバスツアーでした。

（藤本黎時）

子どものための音楽プロジェクトを７会場で開催

10月から11月にかけて「子どものための音楽プロジェクト」を７会場で開催しました。公益財団法人エネルギア文化・スポーツ財団から補助金、広島信用金庫から協賛金をいただきました。ありがとうございました。

こども音楽体験教室　広島文化学園大学

・クラリネットミニコンサート

・10月17日（火）　舟入保育園
当日は園児、職員、保護者と、職場体験で訪れていた江波中学校の生徒34人を含む約180人がミニコンサートを楽しみました。

・11月７日（火）　上安保育園
昨年７月に続き２回目の開催。参加者約180人

・金管アンサンブル

・11月30日（木）　大芝児童館
指導教員２人（末永雅子教授、高橋千絵准教授）、学生９人。楽器はトランペット、フリューゲルホルン、ユーフォニアム、テューバなどで編成。迫力ある演奏で子どもたちを魅了しました。

昨年９月、大芝小学校で開催した大芝学区カレーつくり大会に、大芝児童館の竹内加江館長がお見えになったご縁から、今年の開催が決まりました。NPOとしては児童館で開催するのは初めて。児童館でも初めて音楽をテーマにした行事を行うことができたと喜ばれました。参加者95人。

演奏した学生たちが出演する第42回定期演奏会が、12月17日（日）に広島文化学園HBGホールで開催され、事務局から窪田晴美、木時寿子、野坂忠守の３人が参加し演奏を楽しみました。

こども夢コンサート　エリザベト音楽大学

・ヘンゼルとグレーテルとオズのまほうつかい

子どもたちに音楽に親しみを持ってもらえるよう、ミュージカルとオペラの要素を取り入れた音楽劇

・10月23日（月）　宇品東保育園　保護者も含め約180人参加
　　元宇品保育園　約90人参加
・10月30日（月）　落合保育園　約240人参加
　　地域の人に呼びかけたところ19人が参加。これは今までの最高記録。
　　真亀保育園　約130人参加

出演者／折河宏治（特別出演：准教授・バリトン）、大学院生、学生、7人、ピアノ伴奏／大内那実

大内さんは12月13日（水）開催の広島プロミシングコンサートで広島交響楽団と共演されました。演奏曲目はラフマニノフ：ピアノ協奏曲第2番ハ短調。

※次回予告／２月28日（水）10：00～11：00　中区流川こども園

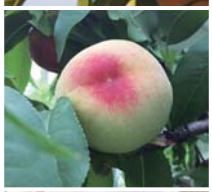
（木時寿子・野坂忠守）

協賛金　会報35号で、事業展開をするうえで、安定した財源確保が課題だとして、協賛社（者）を募集することを検討する旨、お知らせしました。このたび、広島信用金庫様から、「子どものための音楽プロジェクト」事業に役立ててほしいということで100,000円の協賛金をいただきました。また、匿名で二口、各50,000円の寄付をいただきました。ご協力に心から感謝します。

果樹栽培を通じて多くの人たちとの出会いに感謝

会員　中村　勝三郎

「瀬野農園」は安芸区のJR瀬野駅から車で５分の所にあり、この地は昔から「五石」と言われ優れた米の生産地でした。地主の方が高齢となり、耕作放置の荒れた棚田になっていました。10年前から専門学校の演習農場として果樹を植え付けたが、その後学校が撤退し、一時若者夫婦が新規就農を試みたが成功しませんでした。せっかく育てた果樹のこと、その後も廿日市から往復70kmの距離を週３から４日の割合で趣味として管理育成に没頭しています。果樹栽培には水はけが良く日当たりの良い傾斜地が適地ですが、水田転換地であるため樹姿を整えるのに時間を要し、10年を経過しやっと実りも安定してきました。



農園全体面積は3反（3,000㎡）で8種70本（ブドウ・11本、モモ・35本、ナシ・2本、リンゴ・6本、カキ・2本、キウイフルーツ・2本、イチジク・6本、柑橘類・6本）の果物を栽培しています。

パイプハウス（幅7m、長さ45m）内で栽培しているブドウ瀬戸ジャイアンツ（桃太郎ブドウ）は種無しで皮ごとイチゴ感覚で食べられる品種で、収穫時期は8月中旬から11月中旬まで。また、露地栽培のマスカットベリーAは８月中旬から11月中旬まで。大玉の藤稔は8月中収穫できます。モモは６月下旬から９月まで６品種（日川白鳳、清水白桃、瀬戸内白桃、武井白桃、白麗、あきぞら）が収穫できます。

初夏から初冬まで今年は約50組200人もの老若男女が来園され、楽しんでいただきました。97歳と93歳のおばあちゃんたちには2回にわたり訪れていただきました。

昼時には時間をかけ練り上げた生地のピザ、もぎ立ての果物のデザート、孟宗竹を利用した流しそうめんなどが好評です。また、民家の梁（はり）を利用して作ったハンモックや、ブランコも、子どもたちの良き遊び場になっています。

周辺環境の向上と、病虫害の予防にバラを植え付けていますが、今年の春大学の同窓会で横浜「みなとの見える丘公園」のバラ公園を訪れたとき、目にした品種、「ナエマ」を早速農園に植え付けました。

このバラは淡いピンクで香りも良くパリの香水メーカー、ギャランも活用している品種です。四季咲きで年中咲いているので、もしご来園いただけたら香りを楽しんでいただきたい。

少々熱いが８月のお盆過ぎごろに来園いただくと、モモ、ナシ、リンゴ、ブドウが一度に収穫できます。

日帰りバスツアーに参加した後は、短い農閑期も終え、減農薬でおいしい果物の準備として、枝を横に導くための剪定整枝、骨粉・有機質肥料・海藻の施用、厳寒期に最も重要な石灰硫黄合剤の撒布と、手間暇をかけての作業が続きます。これからの寒い時期、ハウス内での昼食は鍋を囲んで熱い肉うどんが絶品です。

来年は私も後期高齢者の仲間入りとなります。大好きな果樹栽培でボケ防止と健康のため、農園通いをできる限り続けられたらと願っています。

農園所在地：広島市安芸区瀬野４丁目1279
連絡先：中村　勝三郎
携帯電話　090-1013-1195

今年度のカレーつくり大会

昨年まで２回実施していた山本学区の大会、今年度は中止となりました。

また、今年で11回目に迎えた舟入学区は私たちの協力から「卒業」し、自分たちだけで12月10日（日）に開催されました。

大芝学区では、今年も９月30日（土）に４回目の大会が大芝学区子ども会育成協議会主催で開催されました。当日は大芝小学校校長も迎え、大人・子ども合わせて約170人の参加者でした。

私たちのNPO法人は企画協力で参画し、ハウス食品株式会社・株式会社徒然社の協賛社紹介、飯ごうなど器材の手配で協力しました。

この事業の出発点は「子どもたちをたくましく育てよう」です。カレー作りをする中で子どもたちにいろいろなことを体験させよう、大人が口を出すのは控えよう、子どもたちが自分たちで苦労しながら進めるのを我慢強く見守ろうというものでした。

作るにあたっては、オノも使い、包丁も使い、火も使い危険がいっぱいです。しかし、「たくましく育てる」を合言葉に当日は「アブナイ、アブナイ」を言わないようにもしました。しかし、その考えはまだまだ、全体には浸透していないようです。

また、回を重ねるうちに当初の目的を忘れがちとなり、大会を実施することだけが目的となっているのではないかと見受けられる部分もあります。

だからこそ私たちのNPOが声を上げなくてはならないのです。来年度、また話を持ちかけ協力して実施したいと強く思います。

（金子敏郎）

法人会員紹介

私たちのNPO法人の活動を支援していただいている法人会員です。

- いでした内科・神経内科クリニック
- 中広印刷株式会社
- 広島信用金庫
- 社会保険労務士法人 サトー
- 株式会社　玉屋
- 社会福祉法人　三篠会
- 株式会社　徒然社

新入会員　個人会員／細田　信行　広島市安佐北区

編集後記

◆私たちの法人も11年目となりました。長く続けることによって新たな価値が生まれてきたと思います。
今回のバスツアーで訪れた場所は、法人関係者が強く関わっていることがわかりました。また、こども音楽体験教室の大芝児童館での開催は、カレーつくり大会をきっかけに実施されたもの。舟入保育園と舟入小学校、山本保育園と山本小学校、これらも私たちの長い活動がつないできたものです。

◆今回は農業に関する記事を２本いただきました。今後の「農と食」を考える活動に生かしていきたいと思います。継続的活動で、私たちの法人がより広く認識されることを祈ります。

（金子 敏郎）

株式会社 徒然社 つれづれしゃ　名刺から出版物まで、印刷承ります。 広告